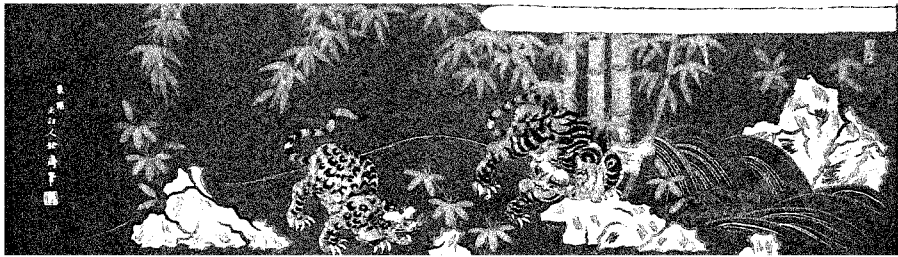


下町所有「虎」

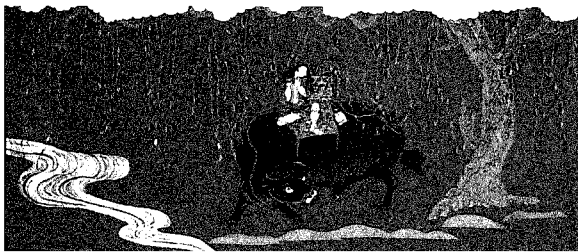


昭和60年11月に東京都の太田美術館の開館5周年を記念して、葛飾北斎の特別展が開催された折り、この「虎」が特別出品されました。この図こそ、あの北斎が下図を描いた作品なのです。飾り幕の片隅には、「東陽画狂人北斎筆」と落款が縫われています。



四町に現存する
飾り幕を紹介します

早馬町所有「牧童牛背に笛を吹く」



早馬町の屋台の後幕で、赤々と燃える夕映えを見立てた幕の中央に、今しがた草刈りを終えた牧童がゆうゆうとした黒牛の背に乗って、横笛を吹きながら家路に向かうそのひとときの静かな情景をとらえた絵柄です。中国宋代に作られた禅仏教の「十牛図」の図柄から取り上げたと思われます。



仲町所有「桜に駒」



「桜に駒」は仲町で所有していましたが、昭和10年9月の荒天の際仲町大神宮公園のがけが崩れ、保管しておいた倉庫が倒壊してこの幕は土砂の中に埋まってしまいました。

しかし、この受難にもかかわらず、鮮やかに残されていた「桜に駒」は、昭和58年に復元されよみがえりました。



新町所有「鹿島踊」



かつては、絹問屋として栄えた貴重な民家（仁科家）を、市が商家資料館として活用している表座敷に、昭和62年に修復を終えた新町所有の「鹿島踊」が飾られ、人の目を楽しませてくれました。今年は、復元を終えた新町屋台の後幕として見事な勇姿を見せてくれました。



三町の屋台がそるい勇姿を披露



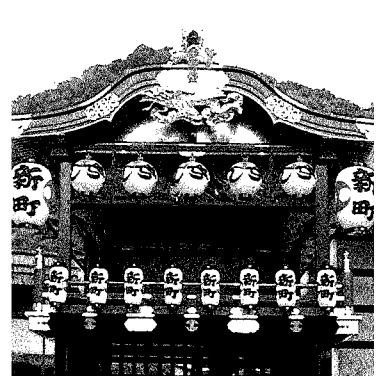
早馬町屋台

三つの屋台で唯一お囃子を披露してくれる屋台です。いい響きですよ。



下町屋台

葛飾北斎が下絵を描いたとされる後ろ幕を付けた屋台です。



新町屋台

今年復元したばかりの屋台なのでまだ、目にまぶしいですよ。